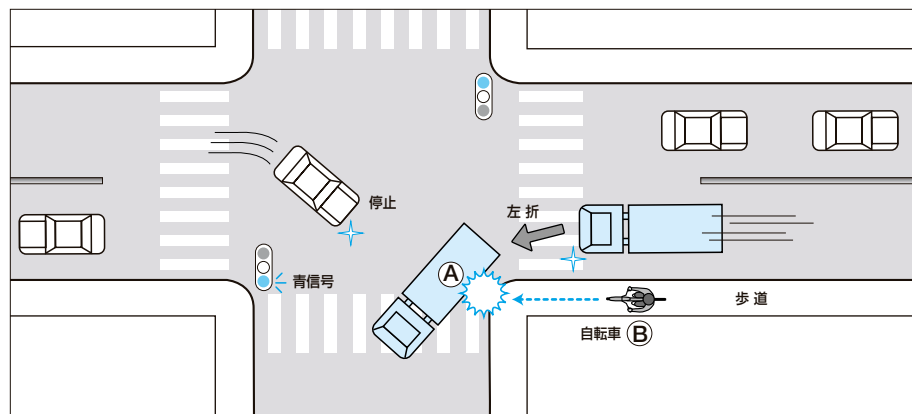


# 職場における交通安全指導

## ④ 交差点左折時に、横断自転車に衝突



### ■事故の概要

#### ●発生状況

日時：平成20年8月某日 午後8時頃  
天候：曇り

#### ●道路状況

郊外を走る片側一車線の交通閑散な市道

#### ●事故の当事者

運転者A (大型トラック)：30歳、男性  
被害者B (自転車)：17歳、男性

#### ●被害状況

A：左サイドバンパー微損  
B：右足首骨折、全身打撲等 (全治3か月)

### 事故状況

Aは、入社後10年になり、最近11tの大型貨物車を任せられ、主に建築用資材を運搬する業務に従事していた。

普段の仕事振りは積極的で処理も早い反面、やや短慮で行動が先走るところがあり、これまで4件の物損事故を起こしているが、いずれも原因は慎重さを欠いた運転によるものであった。

事故当日は、遠距離の搬送業務を終えた帰途で、会社付近に差し掛かっていた。

当該道路は、道路幅員の広い片側一車線の市道で道路沿いに照明が少なく、夜間は暗く見通しの良くない状況にある。

事故当時Aは、事故発生場所である交差点を左折するため減速しながら接近し、青信号に従い左折を始めようとしたところ、対向車線の普通乗用

車が右折の合図を出し、急に交差点中央に迫ってきた。

Aは、一瞬驚き一旦停止をし、普通乗用車が交差点中央で停止したのを認め左折を開始した。

Aは自車両のライトの方向だけに視線を向け走行していたため、左後方から横断歩道を渡り始めた自転車に乗るBに全く気付かず、自車両の左後部を自転車に衝突させて車輪で巻き込み、Bに重傷を負わせた。

この事故の直接の原因は、Aが左折する際左方への安全確認を怠ったことであるが、その背景には、Aが交差点に接近中の時、左側の歩道をほぼ併走するように進行していたBを見落とし、横断者はいないものと思い込み、歩道への警戒を全く欠いたことである。

一方Bについても、目立たない服装で無灯火の自転車に乗り、Aが左折の際一旦停止したのを見て、横断歩道を渡ろうと交差点の幾分前からスピードを上げ、周辺に無警戒のまま一気に横断しようとした行動は無謀であった。

### 安全指導

#### ① 「プロ」としての自覚を持つ

当該事故を振り返ってみると、Aは「歩道を併走するBを見落とし」、また、交差点を左折する際は、普段から歩道通行者がまばらな状況から「歩道通行者はないと思い込み」、歩道への警戒を一切怠ってしまいました。

Aが取った一連の行動の中で、この2つのミスが事故の要因となりました。

Aは、最近事故もなく、運転者としてベテランの域に達し、しかも運転テクニックや仕事振りが買われ、社内の中堅として後輩を指導する機会も増えていました。

一方で、「運転は上手い」という自意識も年々つり、それが油断を生み、今回の運転ミスにつながりました。

Aは、職業運転者といわれる「プロ」の運転者です。

プロの運転者に求められるものは、運転テクニックだけではなく「如何に事故なく安全に、荷物を目的地に運ぶか」にあります。

人は誰もミスを起こしますが、プロの運転者として、ひとたびハンドルを握った時は、「運転ミスは許されない」という強い自覚を持って安全運転に努めましょう。

#### ② 気持ちの緩みに注意

Aは、鋼材の運搬業務ということから、助手席に後輩等を同乗させるケースが多かったが、この日はたまたま単独で搬送業務に従事しました。

一段落し帰路に着く頃には、荷捌きの労に加え、不慣れた道路でしかも長距離運転であったことから相当に疲れていましたが、仕事を終えた安堵感からホッとした気分になり、気持ちも緩み、警戒心も希薄になっていました。

気持ちの緩みが注意力を低下させ、認知ミス・判断ミスを生じさせる漫然運転に陥らせるようです。

十分に気持ちを引き締めて運転しましょう。

#### ③ 危険意識の保持

事故発生場所付近は、夜間の照明が少なく見通しも不十分な状況でした。当然Aは、運転中にライトの明かりの方向だけでなく、周辺にも十分注意を配る必要があったのに、これを欠いたためBを歩道上で、また、交差点で見落とししてしまいました。

Aの運転は、警戒心を欠いた漫然運転と言わざるを得ません。

夜間は昼間に比べ、辺り一面が闇に閉ざされ、運転視界は著しく制限されるため、自転車や歩行者、特に目立たない服装の通行者に対しては、見落とし・発見遅れなどの危険が十分に予想されます。

運転者は、認知条件が悪い夜間を、昼間と同じような意識でハンドルを握ることは、絶対に避けなければなりません。

夜間走行の際は、運転者は昼間以上の危険意識を強く持ち、そして交通状況が刻々と変化していく中で油断することなく、その意識を常に保持して行くことが肝要です。

#### ④ 交差点通行の危険要因

交差点を通行する際は、事故に結びつく幾つかの危険要因が存在します。

次の危険要因に十分留意し、安全運転を心掛けましょう。

交通弱者の行動特性	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自転車・二輪車は、バランスを崩して転倒し轢過され易く、また無防備なため重大事故の危険が高い。</li> <li>2. 自転車や歩行者は、信号無視、信号変り目の飛び出し、斜め横断、停止車の陰からの飛び出し等、予想外の危険行動が多い。</li> </ol>	
貨物自動車	優先判断	直進車、左折車の優先、広い道路の優先、優先道路の優先などの判断を誤り、特に無信号交差点ではルール無視の出合頭事故が発生している。
	死角	左右、後方には眼やミラーで捉えられない死角が多く、交差点右左折時の見落とし、発見遅れ等の原因となっている。
	内輪差	交差点を右左折する際、外側を通る前輪軌跡と内側を通る後輪軌跡の差は大型車ほど大きく、自転車・二輪車を巻き込む事故の一因となる場合も多い。
	遠心力	カーブを曲がる時、外側にはみ出そうとする遠心力は、速度が2倍になれば4倍になる。貨物車、特にトレーラーの横転事故に影響を及ぼしている。
同調	運転席が高く、前方を見渡す視線も高いため、前方の大型車等の動きに同調し易く、交差点付近で停止・発進時に直前の軽自動車や二輪車など小型車の動向に気付かず、追突事故が多い。	